



赤目まちづくり委員会・市民センター たきこちゃん通信 3

2022年
月号

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター)〒518-0465名張市赤目町丈六238-1 電話/FAX63-0329 E-mail/akame-ko@emachi-nabari.jp

年度末を控え令和3年度を振り返って！

赤目まちづくり委員会 会長 亀本和丈
厳しい寒さもようやく峠を越え本格的な春の足音がどこからともなく聞こえて来る今日この頃でございます。

今年度、地域皆様方には、当まちづくり委員会を始め市民センターの諸活動に対し深いご理解と暖かいご協力、ご支援を賜り心より厚くお礼と感謝を申し上げます。

一昨年より続いております変異株コロナウイルスによる感染拡大は、我が国はもとより世界中で「猛威」を振るい、国内に付きましても 2/3 以上の首都圏を含む道府県が一時コロナ感染の緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置が発令される等、過去に例のない重大な災害であったと云わざるを得ない処です。この様な状況下に於いても、安全・安心を第一と考え私達関係者一同は開催時期、内容、実施方法等を検討しながら当初の活動予定を少しでも達成すべく歩みを進めて参りました。

当初の予定よりは一年遅れとは云え4月8日には東京オリンピックの聖火リレーの名張区間として地元赤目四十八滝に迎える事が出来、無事一役を担う事が出来た事に改めてお礼を申し上げます。また、8月14日には市役所でのパラリンピック聖火の採火式典に一ノ井松明講が参加・協力を頂きました。

その後例年実施している市民センターまつりは、特に室内のため感染防止から作品の展示のみとさせて頂きました。また年が変わり正月早々1月8日にはみんなの夢広場に於いて、自分達で作成した和風による凧揚げ大会が教育長を始め数名の来賓の元、まさに老若男女約80名が好天気恵まれ童心に返った初春に思いを新たにしました。

「公園の竹あかり」開催

赤目竹あかり SDGs プロジェクト後援で、2/14(月)バレンタインデーにちなんで、「公園の竹あかり」をマツヤマSSKアリーナ(名張市総合体育館)前で開催。今年初めてのイベントに、夕方 18 時より 21 時まで、家族連れ・カップル等 300 名余りの人が参加してくれました。ほのかな竹あかりの灯とキャラクターの竹あかりが人気で、散歩途中の人もコロナの雰囲気吹き飛ばすかのように、寒い中足を止めて見入っていました。ご参加・ご協力頂きました方々、夜の寒い中本当にありがとうございました。



＜お知らせ＞

伊賀一ノ井松明調進行事 護摩法要厳修

日時 令和4年3月10日 午後13時より
場所 極楽寺 本堂・護摩壇 護摩木1本 500円
護摩の祈禱を通じて、皆様の煩惱を焼き、厄を払い、願い事「家内安全」「身体健全」「商売繁盛」「交通安全」「疫病(コロナ)退散」「当病平癒」等の成就をご祈願致します。当日受け付けしています、随時お申し込みください。見学は、無料・自由です。
問い合わせ 伊賀一ノ井松明講・極楽寺 63-3168

「赤目竹あかり SDGs プロジェクト」の サポーター・推進スタッフ募集！！

赤目まちづくり委員会では、幅広い年代の皆さんで、持続的に活動が出来る事業として、「竹」に興味のある方、また SDGs プロジェクト推進スタッフとして活動頂ける方を募集しています。

＜お問い合わせ・申し込みは、＞

赤目市民センターまで。電話 63-0329

名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋(無料交付)
特大 45 リットル 10 枚 480 円・大 30 リットル 10 枚 300 円・
中 20 リットル 10 枚 180 円・小 10 リットル 10 枚 80 円
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり 30 枚以内。

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター
ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。※スマホ・携帯電話で左のQRコードを読み取って下さい。また市民センターでは、無料Wi-Fiが使えます。

＜長年ご愛読頂いています「たきこちゃん通信」は、新年度(令和4年4月)より、「赤目まちづくり通信」として、体裁A3判・カラー刷でリニューアルします。乞うご期待を。＞

三重大学教育実習に参画

2月17日(木)三重大学医学部医学科 地域基盤型保健医療教育実習報告会・名張市班で、赤目まちづくり委員会の活動が、研究発表として取り上げられました。高齢化の進む地域におけるボランティアの必要性・意義に対して、人数の不足など赤目地域の課題について、様々な角度からの考察がZOOMのオンラインで発表・広聴講義として、参加開催されました。

お知らせ

「旅ステ」スタッフ募集！！

令和4年度「旅のステーション(旅ステ)」の開設3月26日に合わせ、新規スタッフ「散策サポーター」を募集します。集ってご参加ください。

ボランティアで旅ステを手伝って下さる方で、年齢・男女を問いません。土日・祝日の9時から4時まで、赤目の玄関口・赤目口駅前の「旅のステーション」を開所して頂ける方を募集。年間2～3回の担当・活動です。

赤目滝へ行かれる方への案内・地域の歴史遺産・神社仏閣・名跡の紹介など。赤目のおもてなしのお手伝いです。



春季全国火災予防運動

期間 3/1～7日(月)まで

「おうち時間 家庭で点検 火の始末」

住宅
防火

いのちを守る **10** のポイント

4つの習慣



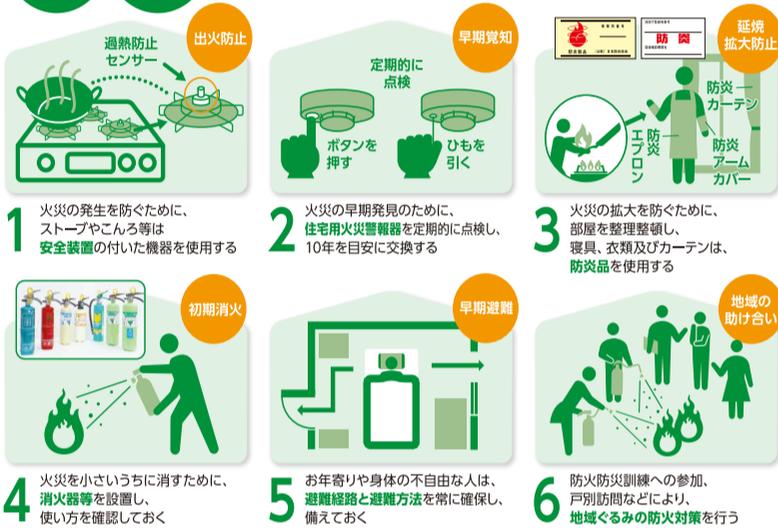
1 寝たばこは絶対にしない、させない

2 ストープの周りに燃えやすいものを置かない

3 こんろを使うときは火のそばを離れない

4 コンセントはほこりを清掃し、 unnecessary プラグは抜く

6つの対策



1 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する

2 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する

3 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防火用品を使用する

4 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく

5 お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく

6 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

FDMA 消防庁
Fire and Disaster Management Agency
https://www.fdma.go.jp/

お問い合わせ先

3月7日～4月3日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
3/7	8	9 ふれあいサロン	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22 ふれあいサロン 忍たま広場	23	24	25	26 旅のステーション開所	27 赤目四十八滝・滝まいり
28	29	30	31	4/1	2	3

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密（密集・密接・密閉）を避けて運営しています。しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合がありますので、ご注意お願い致します。

4月の行事予定



- ★4/9(土) 戦没者追悼式予定
- ★4/13(水) ふれあいサロン
- ★4/17(日) 名張市長選挙
- ★4/20(水) ELP 健康教室
- ★4/21(木) サンサンカレー
- ★4/27(水) ふれあいサロン・忍たま広場

印刷・コピー機 ★新設★

料金・・・1枚からOKです。

白黒・片面(A4・B4共) 1枚 2円
カラ― A4 10円 B4 15円 A3 20円
(用紙持ち込み 1枚につき1円引き)

Vol. 26 新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」(各区・地域の名所・名品を募集しています。)

「名張が生んだ文豪」

名張と云えば、江戸川乱歩の生誕地。日本の探偵小説(推理小説)を創始した作家で、明治27年(1894年)名張で生まれた。2歳の頃父の転勤に伴い転居したせいで、乱歩にとって名張は「見知らぬふるさと」であり続けたが、晩年になって名張の地を踏む。乱歩の生誕碑は、名張市新町の栴田医院の庭にある。乱歩が57年ぶりに名張を訪れた際、彼の出産を手伝った老女に会って初めて生誕地を知る。これをきっかけに、昭和30年(1955年)に名張市民の手で「江戸川乱歩生誕地」碑が建立。また、名張駅前には江戸川乱歩の銅像がある。

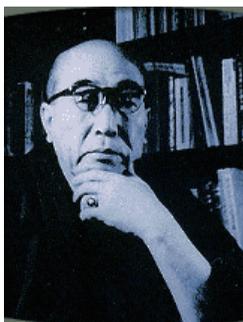
明治27年10月21日、当時の名賀郡役所の書記であった平井繁男の長男(本名・平井太郎)として、名張に誕生。父の転勤で鈴鹿郡亀山町(現亀山市)、翌年名古屋市に移る(以降、大人になっても引越を繰り返す、生涯で46回引っ越した)。大正五年(1916年)早稲田大学を卒業、同十二年処女作「二銭銅貨」を発表。ペンネームは、米国小説家のエドガー・アラン・ポーのもじり。以来多くの傑作を生み、日本近代探偵小説を創始しその分野を確立した。大正から昭和期にかけて活躍し、主に推理小説を得意とした。1931年(昭和6年)5月、乱歩初の『江戸川乱歩全集』全13巻が平凡社より刊行開始された。総計約24万部の売り上げを記録し、経営の行き詰まっていた平凡社を建て直すきっかけとなった。

特に少年向けとして1936年に発表した、明智小五郎と小林少年や少年

探偵団が活躍する『怪人二十面相』は、子供達から圧倒的な人気を得てテレビ化・シリーズ化され、いまでも多くの読者に読み継がれている短編小説で読みやすい作品。

日本国外の推理作家との交流も積極的で、エラリー・クイーンと文通してアメリカ探偵作家クラブ(MWA)の会員にもなったほか、各国の推理小説事情を日本に紹介。1954年、江戸川乱歩の寄付を基金として、日本推理作家協会(旧:日本探偵作家クラブ)により、探偵小説を奨励するために制定された文学賞「江戸川乱歩賞」が設けられた。現在では推理作家への登竜門として知られる。

また文豪・田山花袋(たやまかたい)の「名張乙女」には、「伊賀の国、名張の町、--このようにやさしい娘の多い町は、何んなに平和に、何んなにすぐれた処でせうか。」(原文ママ)と名張・伊賀を称賛。田山花袋は、大の旅行好きで作家活動の傍ら日本中をくまなく旅している。名張をことのほか好いたようで、彼が「名張」に抱いた浅からぬ愛情を小説「名張少女(なはりおとめ)」を通して象徴。名前は「お園」19歳。島ヶ原の料亭で仲居をつとめるうら若く、純情で優しい少女。「名張おとめ」はこの女性に由来しています。今宵も「名張乙女」を片手に故郷を愛でたいものだ。そして故郷を誇りに思える人が大いに育てて欲しいと思う。



江戸川乱歩



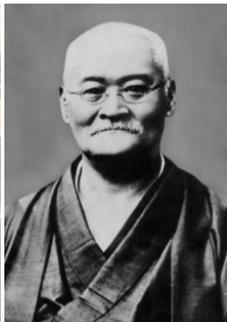
江戸川乱歩生誕の碑



名張駅前の銅像



小説『怪人二十面相』



田山花袋



小説『名張少女』



清酒『名張乙女』